

授業科目名	社会Ⅱ	教員名	藤本 将人	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	必修
科目番号	KY0110	配当年次	1年後期		幼稚園教諭	選択
					保育士	選択
授業形態	講義				こども音楽療育士	
単位数	2単位				情報処理士	
科目						
施行規則に 定める科目区分						
一般目標	小学校学習指導要領社会編で取り上げられている各学年の内容（我が国の政治や歴史と国際理解の学習等）に関わる基礎的事項の理解とその調査・探究方法を学ぶとともに、学習内容を小学校社会科の目的・目標と関連付けて考えることができる。					
到達目標	(1)-1) 小学校社会科における各学年の内容の構造（我が国の政治・歴史・国際理解の学習等）を理解することができる。 2) 地域の調査方法を理解することができる。 (2)-1) 調査した結果を小学校社会科の目的・目標と関連付けて教材化できる。 2) 考察の結果をプレゼンすることができる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	小学校社会科の内容を踏まえて、地域社会に尽くした先人の働き等、地域社会学習の基本を学習する。「社会Ⅱ」では、政治や、縄文時代から現代までのわが国の歴史について学習する。さらに国際理解について、基本的な概念・事項を学習する。アクティブラーニングとして、振り返り、レポートなどを取り入れる。					
履修条件・注意事項	あらかじめ「社会Ⅰ」の科目を履修していることが望ましい。					
授業計画	<p>第1回：小学校社会科の内容の確認（目標(1)-1)） 社会科の内容を確認する。社会科の内容は、児童の発達段階や地域の実態の外に、社会諸科学の内容や方法を背景として構成されていることを理解する。</p> <p>第2回：我が国の政治の働き（目標(1)-1, 2)） 日本国憲法の基本原理（国民主権、基本的人権、平和主義）、三権分立、地方公共団体や国の政治と国民生活、裁判員制度、租税の役割を学ぶ。</p> <p>第3回：古代の歴史の流れと歴史教育の基礎（目標(1)-1, 2)） 小学校学習指導要領社会に例示される42名の人物と代表的な文化遺産、世界遺産、重要文化財をとおして、それぞれの社会・時代を考える。</p> <p>第4回：中世の歴史の流れと歴史教育の基礎（目標(1)-1, 2)） 源頼朝と武士の世の中、蒙古襲来、書院造等について学ぶ。</p> <p>第5回：近世の歴史の流れと歴史教育の基礎（目標(1)-1, 2)） 戦国期から江戸時代、キリスト教、鉄砲、徳川家光、鎖国、参勤交代を学ぶ。さらに近世の文化、伊能忠敬と日本地図、歌舞伎、蘭学・国学、浮世絵を学ぶ。</p> <p>第6回：近現代の歴史の流れと歴史教育の基礎（目標(1)-1, 2)） 近代国家の形成、明治維新、廃藩置県、大日本帝国憲法、四民平等の意味を考える。さらに世界に歩み出した日本と敗戦、科学の発展、日清日露戦争、条約改正、日華事変、第二次世界大戦、新しい日本、平和な日本へ、日本国憲法の制定、東京オリンピックを学ぶ。</p> <p>第7回：現代社会と私たちの生活（目標(1)-1, 2)） 政治・法律・憲法の仕組み、個人と社会生活、国民生活と福祉、政治的な見方や考え方の育成について学ぶ。</p> <p>第8回：世界平和と人類の福祉の増大（目標(1)-1, 2)） 国際連合の働き、我が国の役割、国際平和協力法と国連平和維持活動（PKO）、ユネスコ、ユニセフの活動、国際交流や国際協力、異文化理解を学ぶ。</p> <p>第9回：経済生活の仕組み（目標(1)-1, 2)） 日本経済の動態分析、我が国とつながりが深い国の人々の生活、貿易について学ぶ。また経済学・社会学の方法を学ぶ。経済的な見方や考え方の育成についても学ぶ。</p>					

	<p>第10：グローバル経済と日本（目標(1)-1, 2）</p> <p>IMF（国際通貨基金）の役割、WTO（世界貿易機関）と経済連携、FTA、EPA、環太平洋地域の政治と経済、世界標準化競争などについて学ぶ。また経済学、政治学の方法を学ぶ。</p> <p>第11回：地域調査（目標(2)-1, 2）</p> <p>身近な地域を取り上げ、地域の政治・歴史等を調査する。</p> <p>第12回：地域調査（目標(2)-1, 2）</p> <p>身近な地域を取り上げ、地域における国際化等を調査する。</p> <p>第13回：地域調査（目標(2)-1, 2）</p> <p>第11～12回の調査を振り返り、地域社会学習の基本を踏まえて調査結果を教材化する。</p> <p>第14回：地域調査（目標(2)-1, 2）</p> <p>第11～12回の調査を振り返り、地域社会学習の基本を踏まえて調査結果を教材化する。</p> <p>第15回：プレゼンテーション（目標(2)-1, 2）</p> <p>考察の結果と教材化した資料をプレゼンする。</p> <p>定期試験</p>
授業外学修時間の確保について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の内容について、講義資料や印刷物をわたすので、しっかりと目を通し、不明な点等を調べておくこと。 ・毎回の授業後に、講義内容について自分の言葉でまとめ、他者に説明できるようにする。
学生に対する評価	<p>定期試験60%、課題レポート40%で評価する。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
テキスト	<p>『小学校学習指導要領』（文部科学省）</p> <p>『小学校学習指導要領解説 社会編』（文部科学省）</p> <p>作成したプリント資料を適宜配布する。</p>
参考書・参考資料等	各社小学校社会科教科書
担当者からのメッセージ	
オフィスアワー	授業の前後の時間（メール等でアポイントを取ること。）
備考	